

海外留学希望者を対象とした留学準備教育
—2011 年度全学共通教育科目「海外留学スキル・トレーニング」
におけるソーシャルスキル学習の取り組み—

Study abroad preparation education for university students planning to study abroad:
Social skills learning in the general education course called Study Abroad Skills
Training in the fiscal year 2011

高濱 愛・田中 共子

要旨

本稿では、一橋大学で 2011 年度から留学希望者を対象として開講された「海外留学スキル・トレーニング」の中から、ソーシャルスキル学習を扱った後半 6 回の講義の概要について報告する。講義には、日本人受講生のほか、交換留学生と留学経験者が参加した。受講生は、留学中にあいそうな場面を留学生とロールプレイで演じることを通じて、6 つのスキルについて学んだ。自己評価の記述データを分析した結果、彼らは自分のスキルが向上したと認識しており、スキルの学習意欲も高まっていたことが分かった。

キーワード：海外留学、ソーシャルスキル、ロールプレイ、留学準備

1. はじめに

2010 年 9 月に創立 135 年を迎えた一橋大学では、学長がこの 135 年目のグランドデザインという意味で、「プラン 135」という基本計画を公表した。中期計画と同様に、このプランの中でも、学部と大学院において学生の国際交流を促進していくことが掲げられている（一橋大学 135 プラン、2011）。学生の海外派遣という観点から国際交流をさらに促進させていくためには、大学の 1・2 年次といった早い段階から、海外留学への準備を進めていく教育的体制が望まれる。そこで学内の海外留学制度への応募を考慮している学生を対象とした留学準備教育の充実をねらいとして、一橋大学において 2011 年度冬学期（10 月～3 月）から全学共通教育科目「海外留学スキル・トレーニング」（2 単位）を新規開講するに至った。この科目は、ともに海外留学経験のある本稿の第一筆者ともう 1 名の教員（商学研究科・秋庭専任講師）のコラボレーションによって実施されている。15 週にわたる講義の前半は、海外留学に必要な異文化コミュニケーション関連の講義やディスカッションやケーススタディ、同時限に開講している「外国人留学生ゼミナール」を履修中の留学生との合同セッションによって構成される。第一筆者が担当するのは後半の 6 回で、人間関係の形成・維持・発展のための、異文化間ソーシャルスキルの学習が行われた。これは、本稿の第一筆者と第二筆者が、複数の大学で提供してきた任意の参加者による実験的セッションを、演習型の授業として再構成したものである。先行研究の成果は、高濱

(2011)、高濱・田中 (2011a、2011b、2012a) 等に報告されている。留学前にスキル学習に参加した日本人学生たちは、留学先という現実の場面でスキルを使用することで、人的ネットワークを広げたり人的サポートを獲得したりするのに役立てていた。この教育をより多くの海外留学予定者に提供していくには、スキル学習を授業に組み込んでの実施が効果的であろう。そこで本稿では、スキル学習を取り入れた「海外留学スキル・トレーニング」の教育活動報告を行う事をねらいとし、以下に受講生と留学経験者の反応を中心に報告していく。

2. 方法

履修者 一橋大学の日本人学部生 12 名 (表 1)。年齢は 18 歳から 21 歳であり、1 年生が 5 名、2 年生が 7 名であった。

表 1 履修者の属性

記号	性別	語学スコア	留学希望先	留学目的
J1	女	—	英語圏	英語力向上、グローバルな視点を身につける
J2	女	—	英語圏	英語が話せるようになりたい、外国で生活したい
J3	女	—	英語圏	視野を広げる、積極性等を身につける、語学力アップ
J4	男	—	英語圏	視野を広げる、語学力向上、友人を作る
J5	女	—	非英語圏	日本を外から見る、異文化を肌で感じる、語学力向上
J6	男	TOEFLPBT 500 点台	非英語圏	英語を話せるようになる
J7	女	TOEFLiBT 70 点台	英語圏	漠然としたあこがれ
J8	男	TOEIC 800 点台	英語圏	語学力向上、海外生活がしたい
J9	男	TOEIC 700 点台	英語圏	外の世界を見たい、英語力アップ
J10	男	TOEIC 700 点台	非英語圏	他の文化に触れて日本の文化を相対化したい
J11	男	—	英語圏	現地学生との交流、友人作り
J12	女	TOEFLiBT 70 点台	英語圏	困難に立ち向かう力をつける、友達を作る、英語力

注 1) 留学希望先については第一希望の地域を記述。語学スコアは、受講以前に受験経験のあるもののみ記載。留学目的は、履修者の記載順に掲載。

注 2) 1 か月以上の海外経験として、J6 は数年間海外に滞在し、J12 は英語圏に 1 か月語学留学をしている。

協力者 セッション協力者として、海外留学経験者である日本人学部生 5 名 (表 2) と、交換留学生 5 名にも授業に参加してもらった。彼らは留学経験者と留学生の学内リストをもとに協力を呼びかけ、協力を申し出た者のうち、日程の都合が合った者である。交換留学生 (R1~R5) は、R1 と R4 が米国、R2 が豪州、R3 と R5 が英国からの留学生である。R2 と R3 は女子、ほかは男子学生である。ほかにティーチングアシスタント (TA) として、メキシコ人大学院生を雇用してビデオ機器の操作等の業務を行ってもらった。

海外留学希望者を対象とした留学準備教育
—2011年度全学共通教育科目「海外留学スキル・トレーニング」
におけるソーシャルスキル学習の取り組み—

表2 セッション協力者の属性

記号	性別	学年	留学先	留学期間
K1	男	5	米国	約1年間の交換留学
K2	男	5	豪州	約1年間の交換留学
K3	女	5	米国	約1年間の交換留学
K4	女	4	米国	中学・高校時代に数か月ずつ数回の留学
K5	男	5	非英語圏	約1年間の交換留学

注1) K5は、交換留学以前に、海外に数年間滞在している。

設定 2011年12月から2012年1月にかけての6回が、スキル学習にあてられた。シラバスの該当箇所を表3に示す。従来の実験的セッションは10名弱という小集団で構成され、1スキルあたりの学習時間を1時間未満からそれ以上に至るまで柔軟に配すことができ、全員に演技の機会を与えた。しかし授業では1回90分という時間的制約があり、1スキルを1回で学ぶために、演技は5~7人のみが行って他はオブザーバーとなる劇場型での実施とした。

表3 「海外留学スキル・トレーニング」シラバスの抜粋

<p><授業の目的・到達目標と方法> この講義は、本学が実施している交換留学や短期海外研修などを希望している学生の中でも、海外経験の多くない者を主な対象とし、コミュニケーション力も含めた「アウェイで活躍できる能力」を習得することを目指している。主な授業方法としては、(1) 海外留学で必要になる異文化間コミュニケーションの理論を、ディスカッションやケーススタディを通じて体系的に学ぶ。(2) 現地が必要となるソーシャル・スキルを体験型・参加型の授業を通じて修得する。(3) 自らの海外留学等について主体的に準備する力を身につける。なお、適宜外国人留学生をゲストとして招き、彼らとともにディスカッションやロールプレイに参加することで、より実践的に異文化間コミュニケーションを学ぶことが可能である。</p>	
<p><授業計画> 第1回目 10/6 オリエンテーション [秋庭・高濱]</p>	
<p>I. 異文化間コミュニケーション概論</p>	
第2回目	10/13 学習・授業スタイルの違いについて [秋庭]
第3回目	10/20 集団主義と個人主義 [秋庭]
第4回目	10/27 言語・非言語コミュニケーションにおける文化的相違 [秋庭]
第5回目	11/10 High/Low Context の文化によるコミュニケーションの違い [秋庭]
第6回目	11/17 DIE メソッド：問題解決の手法として [秋庭]
第7回目	11/24 ケース・スタディ：留学先で起こりうること [秋庭]
第8回目	12/1 留学生との交流セッション
第9回目	12/8 まとめ [秋庭]
<p>II. 海外留学スキル・トレーニング</p>	
第10回目	12/15 ソーシャル・スキル学習 (1) 自己紹介、非言語的スキル [高濱]
第11回目	12/22 ソーシャル・スキル学習 (2) 対人関係開始スキル [高濱]
第12回目	1/5 ソーシャル・スキル学習 (3) 質問スキル [高濱]
第13回目	1/12 ソーシャル・スキル学習 (4) 発言スキル [高濱]
第14回目	1/19 ソーシャル・スキル学習 (5) 要求伝達スキル [高濱]
第15回目	1/26 ソーシャル・スキル学習 (6) 主張・交渉スキル1 [高濱]

学習内容 予備調査 (Takahama and Tanaka, 2012b) に基づき、従来型セッションで扱ってきた 12 スキルの中から、6 つを選択した。これは K1 から K3 を含む合計 7 名の留学経験者 (K2 のみ豪州、他は米国に留学) に、12 スキルの課題場面を示してスキル学習の必要性や重要性の優先順位を数値化してもらい、合計点の高い 6 つのスキル(スキル 1、3、4、5、7、9) を選んだものである (表 4)。これら 6 つのスキルの抜粋テキストを作成し、学習当日に学生に配布した。各回で取り上げた学習スキルと演技者、オブザーバー、協力した留学生、協力した留学経験者の配置記録を表 5 に示した。各履修者の演技したスキルとその回数、オブザーバーをしたスキルとその回数、欠席したスキルとその回数を表 6 に示した。6 回の授業中、J2、J4、J6、J8、J11、J12 の 6 名は 1 回欠席 (出席率 83.3%)、その他 6 名は全回出席 (出席率 100%) であった。授業の進行は、従来型セッション (高濱、2011) と同様に、まず課題場面を学生に提示し、助言等を与えずに自由に学生に演技してもらった後、演技を録画したビデオを鑑賞しながら肯定的なコメントを出し合い、フィードバックを行う。続いて 2 回目の演技に移り、終了後に 2 回目のフィードバックを経て、まとめを行ってから評定用紙を記入してもらうというものである。ただし 1 回目のフィードバックと振り返りの際に、モデルとなる留学生の会話を映像に収めた DVD を鑑賞した点が異なる。DVD のモデル会話は長いダイアログから成るため、稿を改めて報告予定である。

表 4 テキストの課題場面と学習のポイント

【スキル 1 表情 (笑顔)、アイコンタクト、聞く態度】	
課題場面	あなたは大学のオリエンテーションに参加し、他の学生の前で 1 分ほどの短い自己紹介をすることになりました。まず他の人が順番に自己紹介していきますので、それをよく聞きましょう。そして、自分の番が来たら自己紹介をしましょう。
ポイント	他人の話をよく聞きましょう。聞いている時は、笑顔とアイコンタクトを忘れずに。
解説	これから学んでいくアサーションのスキルを実践する前には、まず他人の話をよく聞くことが大事です。その際、笑顔とアイコンタクトを忘れずに実践してください。笑顔で聞いていると、話し手に「ウェルカム」の印象をあたえることができます。さらに、日本ではあまりアイコンタクトをとることはしませんが、アメリカではこれも会話の第一段階として重要なことです。目を合わせて、スマイルを心がけるようにしましょう。
【スキル 3 友人を作る】	
課題場面	あなたは、いつも同じ授業を受けている (アメリカ人の) 学生と友達になりたいと思っています。今日もクラスに行くとその学生さんを見つけました。自分から積極的に話しかけるにはどうしたらよいでしょうか。
ポイント	友達作りのためには、気軽に声をかけてみましょう。まず、はじめの話題として、自分のことから先に話すこと (自己開示) が大切。
解説	友達になりたいと思う相手に出会ったら、まず声をかけることから始めましょう。何か自分に関することから話してみましょう。この時、スキル①で学んだ表情 (笑顔)、アイコンタクトを忘れずに行いましょう。さらに、日本人には話のはじめに、相手に質問ばかりしてしまうという傾向があります。これはアメリカ人からは、「尋問」されているようだという印象をもたれてしまうかもしれません。アメリカではまず、自分の情報を提供すること (自己紹介、自分の専門の紹介、同じ授業をとっていること、この間カフェテリアで見かけたこと) などからはじめましょう。

海外留学希望者を対象とした留学準備教育
—2011 年度全学共通教育科目「海外留学スキル・トレーニング」
におけるソーシャルスキル学習の取り組み—

【スキル 4 先生に質問する】	
課題場面	留学して初めての学期に、あなたは自分の専門である言語学のクラスをとることにしました。以前日本で言語学概論（入門）の講義を履修し、言語学は得意だったので、言語学上級のクラスを選びました。授業を受けてみると、言語学専攻の現地の学生ばかりが参加していて、専門用語がたくさん使われていて、進むのが自分には早すぎるように感じられました。しかし、せっかくアメリカに来たのだから、この講義を履修し続けて、是非単位を取得したいと思っています。そこで、担当の先生にアポイントメントを取り、今後どうするかについて相談することにしました。何とかしたいという気持ちを先生に伝えるには、どうすればいいでしょうか。
ポイント	先生に相談することは、学生の権利。攻めの学習態度を持って、積極的に自分の意欲を示して開拓して行きましょう。
解説	アメリカの大学で学生として成功するためには、まず攻めの学習態度を持つことが大切です。例えば、アメリカでは、学生が先生に相談することは権利として認識されています。ですから、心配なことがあった時は、すすんで先生とアポイントメントをとって相談しに行きましょう。黙っていても、あなたが問題をかかえていることが先生には伝わりません。問題点を自分から伝えることで、先生も対応してくれることが期待できます。
【スキル 5 授業で意見を言う】	
課題場面	教育学の授業中に、日本の学校における英語教育が話題になりました。どうやら日本の学校では、どのように英語を勉強しているのか、先生もクラスメイトも興味を持っているようです。日本の英語教育全般について英語で話すのは難しいですが、今までの自分の経験からなら少しは話すことができそうです。次の先生の台詞に続けて、簡単に言うことを説明してみましょう。Prof. White: Could you tell us a little bit about English education in Japan? You graduated from Japanese schools, so you can tell us about how it is.
ポイント	授業中に発言することは、アメリカの大学で成功するために最も重要なことの1つ。自分の意見は必ず言いましょう。
解説	先生から指された場合だけでなく、自分からも積極的にアピールして発言していきましょう。話の全体像がつかめていなくても大丈夫。経験に基づいた自分の意見を述べることも大切です。他のクラスメイトに遠慮をする必要はありません。
【スキル 7 交渉する】	
課題場面	大学の文房具店で、2 日前にボールペンを買いましたが、使ってみるとインクが出てきません。お金を返してもらおうか、新しいボールペンに交換してもらいたいと思っています。お店の人に対して、どのように交渉すればよいでしょうか？
ポイント	アメリカ人はよく主張して盛んに交渉します。
解説	日本よりももっとアサーションを自然で当然なこと、不可欠なことと考えているアメリカ人の態度は、時に日本人にとっては遠慮がなさすぎると感じられるかもしれません。しかしアメリカ社会のルールとしては、しっかり主張しきちんと交渉することは、物事を決めていくための当然の営みであると受け止められています。自分の提案を相手がどう感じるか過度に気かけたり、結果がうまくいかどうかを気にするあまり、主張の機会を逸してしまったりするのは考え物です。チャレンジ精神を持って、積極的に交渉してみることが大切です。交渉の際には、できるだけ[1] 状況をきちんと説明し、[2] 要望や提案の理由を明確に挙げながら、[3] 交換条件があれば示すようにすると、うまく行きやすいでしょう。
【スキル 9 自己開示する】	
課題場面	あなたは、友人から “How was your weekend?” と質問されました。これに答えるため、週末に経験した出来事について、友人に話してみましょう。
ポイント	具体的なエピソードやコメントを交えながら、自分の人間味や個性につながる話をしましょう。
解説	あなた個人の情報や感想を他人に伝えることを、「自己開示 (self-disclosure)」といいます。あなたが自己開示をすることに合わせて、あなたの周りの人もまた、自己開示をすることが知られています。留学中にあなた自身のことを積極的に人に話すことは、相手との距離感を縮めたり関係を深めたりするのに役立つでしょう。なお出来事を話す際には、具体的な描写、数字を挙げた説明など、リアルにイメージしやすい語り方が喜ばれます。金曜日に「良い週末を」と挨拶しあって別れ、次週に様子を尋ねあうことは、よくあります。

表5 学習スキルごとの演技者、オブザーバー、協力した留学生、協力した留学経験者

回	スキル	演技者	オブザーバー	留学生	先輩
1	①	J1、J2、J4、J6、J8、J9	J3、J5、J7、J10、J11、J12	R1	K1、K2
2	③	J3、J5、J6、J7、J10、J11、J12	J1、J2、J4、J8、J9	R1	K2
3	④	J1、J4、J5、J9、J10	J3、J7、J11	R3	K1、K3
4	⑤	J2、J3、J6、J8、J12	J1、J4、J5、J7、J9、J10	R1	参加なし
5	⑦	J5、J8、J9、J10、J11、J12	J1、J2、J3、J6、J7	R1	K4
6	⑨	J1、J2、J3、J4、J6、J7	J5、J8、J9、J10、J11、J12	R2	K1、K3、K5

表6 履修者が演技した・オブザーバーとなった・欠席したスキルとそれらの回数

記号	演技に参加したスキル番号	演技合計回数	オブザーバーをしたスキル番号	オブザーバーの合計回数	欠席したスキル番号	欠席合計回数
J1	①、④、⑨	3	③、⑤、⑦	3	---	0
J2	①、⑤、⑨	3	③、⑤	2	④	1
J3	③、⑤、⑨	3	①、④、⑦	3	---	0
J4	①、④、⑨	3	③、⑤	2	⑦	1
J5	③、④、⑦	3	①、⑤、⑨	3	---	0
J6	①、③、⑤、⑨	4	⑦	1	④	1
J7	③、⑨	2	①、④、⑤、⑦	4	---	0
J8	①、⑤、⑦	2	③、⑨	2	④	1
J9	①、④、⑦	3	③、⑤、⑨	3	---	0
J10	③、④、⑦	3	①、⑤、⑨	3	---	0
J11	③、⑦	2	①、④、⑨	3	⑤	1
J12	⑤、⑦	2	①、⑨	2	④	1

振り返り (1)演技者、(2)オブザーバー、(3)留学経験者、(4)留学生、(5)履修者全員用の振り返り用紙が用意された。演技者用は高濱ら(2010, p69)と同じ項目から成る。オブザーバー、留学経験者、留学生用は、新たに作成された。本稿では特に興味深いと思われた結果を報告するが、それに対応する質問項目を表7に抜粋して示す。

表7 演技者、オブザーバー、留学経験者に対する振り返りの問い(抜粋)

<p>(1) 演技者 ① 1回目の自分の演技を評価してください。→ () 1-全くできていない~10-完全にできている ② 2回目の自分の演技を評価してください。→ () 1-全くできていない~10-完全にできている</p> <p>(2) オブザーバー 今回、他の学生のロールプレイを見て気づいたことや学んだことを書いてください。</p> <p>(3) 留学経験者 今日、留学経験のある先輩として参加して下さった感想を書いてください。</p>
--

3. 結果

3.1. 演技者における自己評価

演技者による 1 回目と 2 回目の演技の自己評価と、評定の上昇を表 8 に示す。のべ 35 スキル中 32 スキルで上昇を示している。スキル上昇者割合を求めると、全 6 スキルのうち 3 つは 100%、残る 3 つも 80.0%以上となった。上昇スキル割合をみると、12 名中 9 名は 100%、残る 3 名も 60%以上であった。

表 8 演技者による 1 回目と 2 回目の演技の自己評価とその上昇割合

	スキル 1		スキル 3		スキル 4		スキル 5		スキル 7		スキル 9		上昇スキル割合(%) と人数 (上昇者/参加者)
	1)	2)	1)	2)	1)	2)	1)	2)	1)	2)	1)	2)	
J1	3	5	-	-	4	4	-	-	-	-	4	5	66.7 (2/3)
J2	7	6	-	-	-	-	2	6	-	-	4	7	66.7 (2/3)
J3	-	-	2	3	-	-	3	5	-	-	4	5	100.0 (3/3)
J4	5	7	-	-	1	4	-	-	-	-	2	5	100.0 (3/3)
J5	-	-	5	7	4	6	-	-	4	7	-	-	100.0 (3/3)
J6	3	6	4	2	-	-	5	7	-	-	7	9	75.0 (3/4)
J7	-	-	4	4	-	-	-	-	-	-	3	4	50.0 (1/2)
J8	2	8	-	-	-	-	6	7	7	8	-	-	100.0 (3/3)
J9	4	8	-	-	3	6	-	-	7	8	-	-	100.0 (3/3)
J10	-	-	2	6	3	5	-	-	3	7	-	-	100.0 (3/3)
J11	-	-	4	6	-	-	-	-	5	7	-	-	100.0 (2/2)
J12	-	-	3	4	-	-	4	5	4	8	-	-	100.0 (3/3)
上昇者割合(%)と人数 (上昇者/参加者)	83.3 (5/6)		71.4 (5/7)		80.0 (4/5)		100.0 (5/5)		100.0 (6/6)		100.0 (6/6)		

注 1) 一部分は欠席またはオブザーバーとなっていたためデータなし

3.2. オブザーバーにおける気づき

オブザーバーとして他の学生の演技を見て気づいたり学んだりしたこととして記述された内容を要約し、類似に基づき分類した(表 9)。言語面や非言語面に加えて、1・2 回目の変化や、考え方・態度、練習の重要性、その他など、多岐にわたる指摘がみられる。

表9 オブザーバーが演技者のロールプレイを見て気づいたり学んだりしたこと

スキル	1回目と2回目の変化	言語面	非言語面	考え方・態度	練習の重要性	その他
1	2回目は堂々としていて素敵。自分に生かしたい(J3)、がらっと雰囲気が変わった(J5)	表情・声といった外面と、話す内容の両面で第一印象をよくすることが大切※(J11)	笑顔やボディランゲージは大事(J12)	—	—	簡単そうだが難しいスキル。ネタの準備が大切(J7)、親しみやすい人にはパターンがある(J10)
3	—	共通の話題を探すべき(J2)、話題を膨らませるのは難しい(J8)	笑顔が大切(J1、J2、J8)	分からないことは聞き直す(J1)、話したい気持ちの押し出しが重要(J9)	—	相手の反応に柔軟に対応することが大切(J4)
4	違いがすごい(J11)	質問をしてみるともっと熱意が伝わる(J3)	声や表情等で自分の熱意を伝えることが課題(J7)、声や表情が重要(J11)	自分から聞くのが大切(J11)	しっかり準備しておくとい(J11)	—
5	2回目はすらすらと充実していた(J10)	自分の意見や経験を盛り込んで議論を生み出すようにすることが重要(J7)	内容と同様姿勢や表情・自信が重要(J4)、アイコンタクトと堂々と話すことが大切(J5)、落ち着いて堂々とすると安定感あり(J7)	うまく言えなくてもあきらめず、焦らずに話すことが大切(J9)	場数が重要だ(J10)	—
7	—	してほしいことをしっかりとすることが大切(J2、J3)	声のトーンやアイコンタクトも大切(J6)	自分の意見を伝えるという姿勢が大切(J2)、堂々と言いたいことをわかりやすく伝える態度が大切(J7)	交渉に入る前に準備が必要(J1)	様々なアイディアが見られて面白かった(J7)
9	—	質問をし返すとテンポがよい、ユーモアを入れるとよりよくなる(J5)、分かなければ聞き返す(J10、J12)、会話を相手に振ることが重要(J11)	揺れないでしっかり立つようにしたい(J5)、明るい方が良い(J8)、会話のテンポが大切(J11)	—	—	日本で何気なくしていることがとても難しい(J8)、相手の話を聞き取るためのリスニングが大切(J9)

注1) カッコ内は回答者。※は複数のカテゴリーにあてはまる回答を示す。複数回答。

3.3. 留学経験者における気づき

留学経験者による記述を、オブザーバーに対する評価と同様にまとめた（表 10）。オブザーバーと同じく、演技の変化に言及したもののほか、自分も受講したかった、ビデオ学習が効果的だ等、授業を肯定的に捉えたコメントがみられる。

表 10 留学経験者の感想

スキル	1回目と2回目の変化	受講希望	ビデオ学習の効果	留学生と話せる機会	場面選択	その他
1	—	留学前に受講できて羨ましい (K1)	客観的にみられてよい (K2)	意欲や意識が高まる (K2)	—	自信をつけるよい機会 (K1)
3	—	—	—	留学生が2人来てよい (K2)	—	—
4	2回目にかかなり改善 (K3)	—	—	—	実践的な場面想定 (K1)	留学にいかせる (K3)
7	2回目にレベルアップ (K4)	—	—	—	—	—
9	全員うまくなった (K3)	留学準備の授業ができてよい (K5)	—	—	大変実際の環境に近い (K1)	—

注 1) カッコ内は回答者。複数回答。スキル5には表5の通り留学経験者の参加はなし。

4. 考察

海外留学スキル・トレーニングの後半の授業において、自分の演技が向上したと認識する受講者が多く見られた。オブザーバーの学生も、観察学習によってスキル使用時の心構えやポイントを学び、自分が演じる場合どうなるかと、自らに置き換えて考えていた。留学経験者はこの試みに総じて肯定的で、自分も受けたかったと記した例もみられた。彼らには、留学経験の振り返りの機会にもなっていた。留学生には、国際交流に興味のある学生と知り合える好機を提供した。一日や数日間のセッションではなく、一定期間継続した授業であり、しかも演習スタイルで対話をすることから対人交流が促進されていたと考えられる。

ニーズを探る事前調査の実施に加えて、留学経験者と留学生の手配を毎年整えることは難しいが、本講義の継続には多元的な効果が期待できよう。受講生のスキル向上は、留学先での円滑な人間関係の促進につながり、留学交流の質の向上に貢献する。数年後には、履修者が留学経験者となって参加する好循環も生まれよう。この授業に集う、国際交流への意欲と興味のとりのわけ高い顔ぶれが、授業終了後も国内外に広がるグローバル・ネットワークを作り出してくれることも期待したい。今後は受講生の追跡調査を実施しながら、さらなる授業改善の努力を続けていきたい。

参考文献

高濱愛(2011)『日本人留学生を対象とする文化行動学習プログラムの開発と実践』2007～2008年度科学研究費補助金(萌芽研究)研究成果報告書

(<http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/19324>)

高濱愛・田中共子(2010)「米国留学予定の日本人学生を対象としたソーシャルスキル学習」『一橋大学国際教育センター紀要』創刊号、pp.67-76.

高濱愛・田中共子(2011a)「派遣留学生の教育的トータルサポートシステム構築へ向けて：日本人留学生を対象とした留学前および帰国後教育プログラムの試み」ウェブマガジン『留学交流』2011年7月号

(http://www.jasso.go.jp/about/documents/aitakahama_tomokotanaka.pdf)

高濱愛・田中共子(2011b)「米国留学準備を目的とした短期集中型アメリカン・ソーシャルスキル学習セッションの記録(1)―自己紹介と対人関係の開始に焦点を当てて―」『一橋大学国際教育センター紀要』第2号、pp.123-132.

高濱愛・田中共子(2012a)「在米日本人留学生のソーシャル・サポート・ネットワーク(3)―ソーシャル・スキル人為学習者におけるソーシャル・サポート―」多文化関係学会第11回年次大会発表抄録集、pp.96-99.

Takahama, A., & Tanaka, T. (2012b). "A Case Study on the Use of American Social Skills by Japanese Students Studying in the U.S.: Based on a Questionnaire Survey Conducted by Japanese Students who Studied in the U.S." *Proceedings of the 2nd Global Congress for Qualitative Health Research 2012*, p231.

一橋大学 135 プラン (http://www.hit-u.ac.jp/function/outside/news/2011/20110401_1.pdf)

付記：本研究は、科学研究費補助金萌芽研究 No.19653099(代表・高濱 愛)の助成を受けた。

(たかはま あい 法学研究科講師、たなか ともこ 岡山大学社会文化科学研究科教授)